

UDC 621.395.66:681.327.8

# JIS

~~C 6372~~

X 5107

## マルチリンク手順

~~JIS C 6372~~<sup>1985</sup>

X 5107-85

昭和60年12月27日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

---

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 60. 12. 27

官報公示：昭和 60. 12. 28

原案作成協力者：社団法人 情報処理学会

審議部会：日本工業標準調査会 情報部会（部会長 和田 弘）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部電気・情報規格課（〒100 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## マルチリンク手順

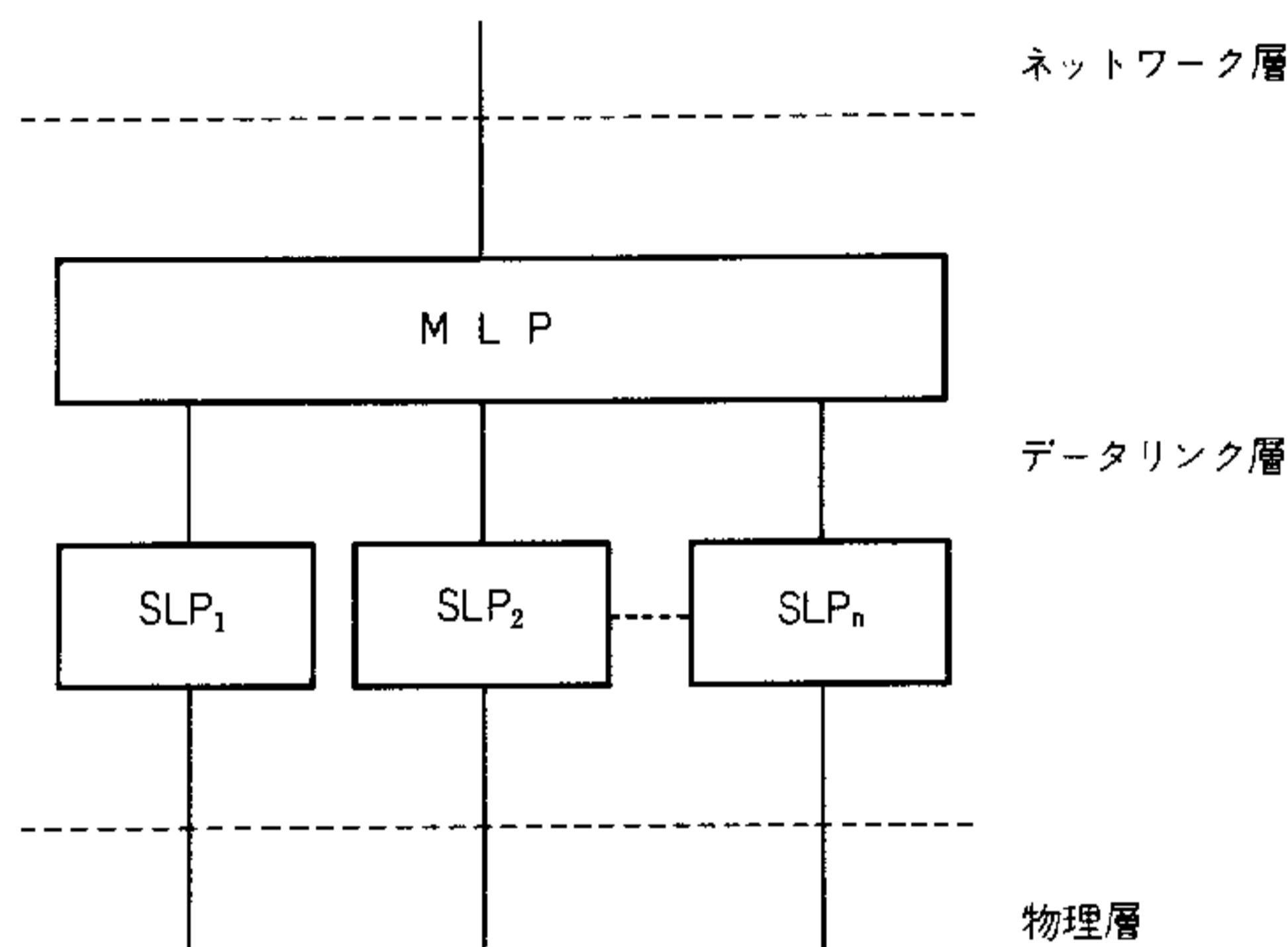
C 6372-1985

## Multilink Procedures

1. 適用範囲 この規格は、データリンク層において複数の並行するデータリンクを用いて、ネットワーク層エンティティ間に種々の伝送容量をもつ一つのデータリンクを提供するために用いるマルチリンク手順について規定する。

備考 1. マルチリンク手順は、データリンク層内の上位の副層のプロトコルであり、複数のシングルリンク手順からなるデータリンク層内の下位の副層とネットワーク層の間で動作する。MLP は、マルチリンク手順を実行し、SLP は、シングルリンク手順を実行する。MLP と SLP との関係を図 1 に示す。マルチリンク手順で使用される複数のシングルリンク手順の遅延特性や回線速度は、それぞれ異なってもよい。

図 1 MLP と SLP との関係



2. マルチリンク手順を実行するものを MLP と呼び、シングルリンク手順を実行するものを SLP という。

2. 用語の意味 この規格で用いる主な用語の意味は、JIS C 6230 (情報処理用語)、JIS C 6363 (ハイレベルデータリンク制御手順のフレーム構成)、JIS C 6364 (ハイレベルデータリンク制御手順の手順要素) 及び JIS C 6371 (開放型システム相互接続の基本参照モデル) によるほか、次のとおりとする。

(1) マルチリンクフレーム マルチリンク手順における転送単位。マルチリンク制御フィールド及びデータユニットからなるビットの列である。

引用規格：JIS C 6230 情報処理用語

JIS C 6363 ハイレベルデータリンク制御手順のフレーム構成

JIS C 6364 ハイレベルデータリンク制御手順の手順要素

JIS C 6371 開放型システム相互接続の基本参照モデル

対応国際規格：ISO DIS 7478 Multilink procedures